

# 稲穂北に輝く にぎりめし



令和3年度穂北中学校だより

7月号

穂北中HP  
校長

伊東泰彦



## 中体連大会、どの部もがんばりました！

コロナ禍で開催が心配された中、6月5日(土)～18日(金)の期間で、学校総合体育大会(中体連)ですが、無事に開催されました。団体スポーツでは県大会出場を勝ち取れた

- 【県大会出場選手】  
 バドミントン・個人  
 橋口晃拓 (シングルス2位)  
 水泳  
 藪押汐星 (100m背泳ぎ1位、200m背泳ぎ1位)  
 谷川向日葵 (100m自由形7位、200m背泳ぎ6位)  
 ソフトテニス女子・個人戦  
 早田凧沙・橋口千里ペア (5位)  
 山口千智・青山美羽ペア (9位)



県大会の出場者

- 【女子ソフトテニス】  
 団体1回戦：都農中に勝利  
 2回戦：唐瀬原中に惜敗

- 【軟式野球】  
 1回戦：穂北中14-0三納中  
 2回戦：穂北中3-6都農中



女子ソフトテニス



軟式野球

部はありませんでしたが、個人戦では、右の選手達が優秀な成績を収め、県大会に出場します。生徒数減少の影響で、どの部も部員数は多くありませんが、本校

- 【サッカー】  
 2回戦 穂北中0-1 国光原・妻合同

- 【女子バレー】  
 1回戦：穂北中2-1 木城中 (公式戦初勝利)  
 2回戦：穂北中0-2 上新田中



サッカー部



女子バレー部



【水泳】

水泳

【バドミントン】



バドミントン

の選手達はどの競技でも、常に全力疾走と全力プレー、大きな声での挨拶や礼儀など、大変素晴らしい姿を見せてくれました。素晴らしい大会だったと思います。

【陸上】2年生3名が短距離に参加しましたが、惜しくも決勝進出はなりませんでした。

# キャリア教育を拡充しています！

さいと学・キャリア教育「進路についての学習」 5月27日（木）5・6校時



オンライン講話の様子

5月27日（木）の5・6校時は、さいと学・キャリア教育としての「進路についての学習」を実施しました。通常は、複数の高校を招いて高校説明会を実施するのですが、今年はその説明会に先立ち「高校とは何をするとところで、どんな意識で進学先を選ぶ必要があるのか」というマインドセットをすることや、「もしも将来就職のことで困ったときにはどうすればよいのか」というセーフティネットを知ることがをねらいとして、この学習を実施しました。3年教室をホストルームとして、全学年及び希望保護者等へオンライン配信しました。



会場(3年教室)の様子

前半は、「みやざき若者サポートステーション」の講話です。総括コーディネータの小原さんから、「もしも将来、就きたい仕事が見つからない、見つからない」時にどうすればよいかや、「面接の際に、自分の欠点と思いがちなことを、逆に強みとしてアピールする方法」についてのワークなど、貴重な学びが得られました。



高校生活の魅力や醍醐味を具体的に語ってくれる高校生

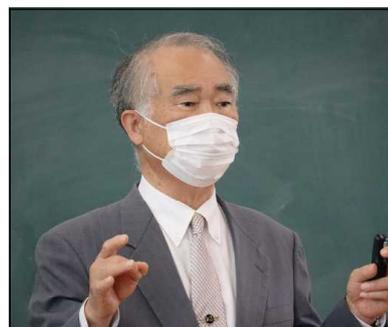
後半は、地元の妻高校から、高橋校長先生と2人の生徒（濱砂羽玲さん、帳綺羅さん）が来てくださり、3年教室でクロストークを行い、それをライブ配信しました。

高橋校長先生の、「高校とは、自分づくりをするところであり、世の中に出た時に必要な力を具体的に鍛えるところである」という本質的な話と、二人の生徒さんからの非常に具体的で真剣な話が絶妙にコラボして、中学生たちにも、高校生活が身近に感じられたり、進学への意欲が高まったりしました。中学生からもたくさんの質問が出され、とても有意義なクロストークとなりました。

## キャリア教育講話 5月26日（水）

元・旭化成支社長の水永正憲氏に来ていただき、「君たちはどう生きるか」という演題で、将来の激変社会で活躍するための土台作りにつながる講話をしていただきました。

なぜ働くのか。なぜ勉強しないといけないのか、幸せとはなにか…といった本質的な問いに、生徒達は真剣に向き合っていました。最後に15分ほどQAタイムがありましたが、中学生から鋭い質問が次々と出るようになり、生徒達の成長を感じたところでした。



水永正憲氏の講話



日本生命による出前授業

グループワーク

## ライフプラン・セミナー

6月16日（水）、日本生命・宮崎支社の方々による出前講座を行っていただきました。将来の人生設計や自己実現の在り方に関し、具体的なイメージをもちながら考えていくことのできる学びが得られました。

# 多様な学びに挑戦しています！

## テスト対策課題を生徒の力で！

6月30日・7月1日に校内定期テストがあります。一年生にとっては初めての定期テストとなりますが、このテストに全生徒がしっかり取り組めるよう、生徒会学習委員会が中心となって「テスト対策プリント」を作成し、それを日々課題として全生徒に取り組ませるといふ、主体的な活動が行われてます。

各学年の担当生徒が教科担任の先生に聞き取りをしながら自分たちで課題プリントを作成していきます。先生たちが用意する課題に取り組むだけでなく、生徒自身の力で課題作成することで、理解力や学びに向かう力が向上すると思います。



## NIEにも取り組んでいます！

新聞活用した教育をNIE (Newspaper in Education) と言いますが、本年度はこのNIEにも取り組んでいます。国語担当の門松先生が、国語の時間を使って記事の読み方や感想のまとめ方などを指導してくださり、6月10日(水)は全学年で「14歳の君へ」という課題に取り組みました。荻上チキさんの評論記事を読んで、200文字以内で感想や意見をまとめる作業に、どの生徒もしっかりと記事に向き合っていました。

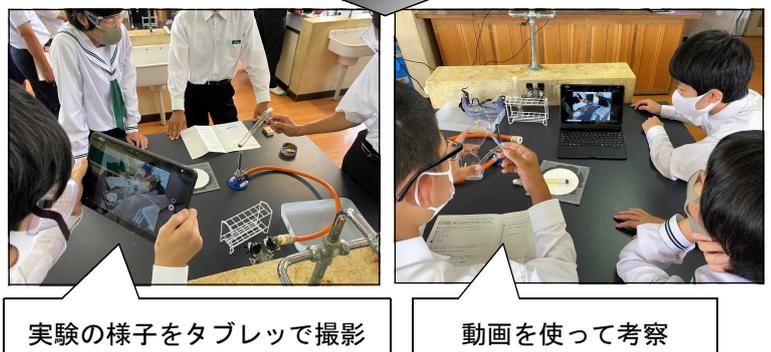
大学入試共通テストでも、新聞記事などの「実用国語」が位置づけられていますが、こうしたNIEの取り組みで、読解力が高まっていくことを期待しています。代表生徒の感想文が毎月一回、宮日新聞の「14歳の君へ」という欄に掲載されていますので、ご期待ください。



## ICTを活用した授業の研究

生徒一人一人にタブレットが配付されましたが、それを活用した授業を工夫していくことも求められています。

6月1日に、そのような趣旨での研究授業を行いました。理科の米良先生が、デジタル教科書の活用や実験の撮影や考察にタブレットを活用した授業を行い、全教師で事後研究を行いました。こうした授業を増やしていこうと思います。



# 穂波ゆる壽き田の里

## 杉安井堰考

も杉安井堰と児玉久右衛門である。私は妻南小出身であるが、四年生の遠足で杉安堰まで堤防沿いを歩いたことを今でも鮮明に覚えている。併せて社会科副読本「わたしたちの西都市」に記載されていた杉安用水もセットで記憶しているが、後に大学で史学を専攻し社会科学の教師になったのであるから、自分のライフワークの原点がこの副読本にあったと言っても過言ではない。穂北中の校長室にはこの初版本があつて、懐かしい表紙につられ手に取ったところ、これは杉安堰に行くしかないと思ひ足を運んだ▼杉安堰は一七〇〇年代・享保年間の建設とあるから、全国で新田開発がさかんに行われた時期と同期している。天水田(雨水に頼った稲作)だけでは石高増が限界となつたこの時代、全国各地の藩で新田開発が進められるようになった。穂北郷の場合は藩の事業ではなく、庄屋の二男・児玉久右衛門とごく少数の出資者による個人的事業であつたというから、飢肥藩領の松井用水や延岡藩の岩熊井堰と比べ相当な苦勞であつたと偲ばれる▼実は、宮崎平野には結構多くのため池があるのだが、これは、7、8月にかけて2週間ほど雨が降らない期間が続く特有の氣候をしのぐための先人の努力の証である。江戸時代中期以降は、井堰や用水路が日本の稲作を担う大動脈となり、それらの多くは今でも変わらず稼働している。朝のあいさつ時に、校門前を滔々と流れる用水路の水を眺めていると、やはりそれは立派な農業遺産なのだと実感する▼杉安堰の建設作業にあつたのは、佐土原藩の高僧・古月禪師も村人の説得に尽力したという記録を目にして驚いた。現在、自分の住んでいる佐土原と勤務地・穂北とのつながりに感じ入り、頭の中に益踊り「いろは口説き※」の旋律が流れた。

(校長 伊東泰彦)

※いろは口説き 「東の白隠、西の古月」と称された高僧・古月和尚が作成したという、いろは48文字で始まる人生訓である。佐土原では益踊りで謡われる伝統民俗芸能となっている。



s48版の社会科副読本



現在の杉安井堰



取水口から流れる水

## お花をありがとうございます

先月号でご紹介した横山先生が、6月にもお花を活けてくださいました(左)。また、保護者の方から素敵なバラをいただきました。ありがとうございます。



### 【7月の主な行事】

- 1日……定期テスト  
PTA企画委員会19:00～
- 2日……参観日・学校保健委員会
- 5日……性教育(全学年)
- 7日……校内ハローワーク(3年)
- 9日……県中体連激励会
- 12日……さいと学・地域伝統文化
- 17・18日…県中体連(ソフトテニス、水泳)
- 20日…終業式
- 25日…県中体連(バドミントン)
- 26～30日…三者面談(3年生)
- 30日…西都市教職員ブラッシュアップ研修